

令和6年度

さいたま市立高等看護学院運営委員会議事録

1. 開催日時 令和6年7月31日（水）午後2時00分～3時15分
2. 開催場所 高等看護学院 情報処理室
3. 出席者 【委員】7人
小島 徹一郎委員長、齋藤 貴弘委員、小櫃 俊介委員
國澤 尚子委員、早坂 直子委員、原 朋子委員、玉野 久美委員
【事務局】
松澤事務長 松本教務主任 千野教務主任 丹治教務主任、清宮主任
欠席者 小山 卓史委員、阪 正晴委員
4. 議 題 報告事項
(1) 令和5年度学校評価について（概要説明）
(2) 令和6年度学院運営目標について
(3) 令和6年度学校の現状報告
1) 学生現状報告
2) 学校運営状況報告
3) その他
5. 公開・非公開の別 公開
6. 傍聴人 なし
7. 会議資料 (1) 令和6年度さいたま市立高等看護学院運営委員会式次第
(2) さいたま市立高等看護学院運営委員名簿
(3) さいたま市立高等看護学院運営委員会規程
(4) 令和6年度運営委員会資料
8. 問合せ先 保健衛生局 保健部 高等看護学院
電話 048-873-0281

1 開会	(司会進行・事務局 松澤)
2 委員長挨拶	(小島委員長)
3 委員紹介	(事務局 松澤)
4 議事	(事務局 松澤) くさいたま市情報公開例第 23 条に基づく公開、傍聴者の確認。 事務局より、傍聴者ない旨報告
5 報告 事項（１）説明	(事務局 松澤) く報告事項（１）について説明
質疑	(國澤委員) 学校説明会の効果、手ごたえはどのような感じなのか。 (玉野委員) 学校説明会には在学生在がボランティアで参加している。普段の講義や演習の様子を、体験を通して知ってもらい、学校の様子を知るための座談会を実施している。本校の特徴や先輩の姿を見ることで学校のイメージがついて入学の決め手になっているという点では効果が得られていると考える。また参加した在学生の刺激ともなり、相乗効果があるのではないかと思います。 (國澤委員) 社会人の入学者の様子を教えてください。 (玉野委員) 社会人と現役生と特に区別することなく学習している。 社会人経験をいかしながら、自分の立ち位置を考え学習を進めている。社会人が交ざることで学習効果が高まると思っている。 (國澤委員) さいたま市及び社会に貢献できる看護師を育成するとあるが、さいたま市に貢献できることと社会に貢献できることの違いは何なのか。 (玉野委員) さいたま市立の学校のため、さいたま市の恩恵を受けながら学習している。そのためさいたま市に貢献してほしいと思っている。一方で、看護師は社会のニーズに応えなければならない職業であるため、社会で何が起きているか、人々は何を求めているのかを考えながら、社会のニーズにあった役割を果たすことも必要だと考える。

	(小櫃委員) 意見箱の内容について検証がどのようにされているか伺いたい。授業で人権や権利を担当している関係もあり、学生から個人的に話を聞く機会がある。意見箱があっても言いづらい、申し出にくいという見解が何件もあり、近年増えているような印象があり気になっている。 20 件の回答を掲示板で回答しているということであるが、それは即応性がある、改善しやすい部分だと思う。改善するならどういう結果になったかまでゴールとして考えていかないと、単に表面的にやりましたとなってしまう。そのため、内容の検証をし、意見箱自体をどのように考えているのか、学院としてロードマップとして出していないといけないと思う。 (事務局 丹治) 意見箱の内容は学院長、教務主任で確認し、教務会議で共通認識を形成したうえで学生に回答している。 内容の一部としては、学生の空き時間の使い方、特に実習中の国家試験対策など、教員の考えと学生の思いに距離があるための意見があった。これは、学生とのコミュニケーション不足が関係していると思われるため、掲示での回答もするが、対面でこちらの思いも伝えている。コミュニケーションを取りながら、意見を聞き、考え方の差を埋めていく必要がある。 (小櫃委員) コミュニケーションを充実させ差をなくすことは、非常に大切な取り組みであると思う。ぜひ継続していただきたい。 (小櫃委員) 近年、看護学校の訴訟が全国各地で頻発しており、専門学校自体が訴えられたり先生が訴えられたりしている。学生に非がないわけではないが、学校や教員のハラスメントの傾向が強く出ている。 一般企業や大学でもハラスメント研修を充実してやらざるを得ない状況であるが、先生の言動、行動、立ち居振る舞いなど、どのようなことがなされているのか気になっている。 (事務局 丹治) 教職員研修としてハラスメント研修を3月に実施した。研修を受け、どんな言動が学生にとってハラスメントになるのかの共通認識を形成した。 (小櫃委員) 言いづらい事案などハラスメントに関わる問題も潜在してしまっているということを聞いている。言いやすい先生に言う、学生にとっ
--	--

	ては逃げ道であり、学生はどうしてほしいか、教員はそういうところまで一步踏み出し、吐き出し口を用意して改善があるように、先生の研修を踏まえたうえで、年間を通して振り返ってほしい。 (早坂委員) 自分の時代と今の先生方の苦勞する部分が違うように感じている。 学生の言い分もよくわかるし、教員が言動に注意する必要があることもわかる。ただ、教員は一生懸命努力しているが、却ってそれが学生を甘やかすことにもつながってしまう場合もあるように思う。それが、教員が定着しない原因にもなっており、大変難しい問題だと感じる。 教員と学生との会話を聞いていると、この学校では非常に丁寧に対応していて大変だろうなとも思っている。そんな風に対応したら学生を甘やかすことになるのではないかなと少し心配もしている。 (小櫃委員) 今は岐路だと思う。だからこそ研修内容が模索されている事実がある。学生の理解を求めるために、何が課題でどういう行為がおかしいということを論理的に伝える必要がある。論理的な説明があれば理解する。一部の先生方が、「何をやってるの?」、「実習で何やってたの?」など、それ以上言葉を繋がない発言をしているようだが、それは指導だとは思わない。 学生は人格を否定されたと感じ、やってきたことそのものを否定されたと感じる。教育として丁寧な関わりやコミュニケーションがされていれば問題ない。 (早坂委員) お互いに理解をしたうえで進んでいかないとはいけませんね。 (早坂委員) 授業評価について、こういうふうにしてほしいということを書いてくれた学生へ返事を返したいと思っている。私はこういうつもりでここを説明したなど、返すことができると良いと思う。 (玉野委員) 授業アンケートは授業改善に使うものであり、一方通行は残念だと思っている。貴重な意見をありがとうございます。 (原委員) 先生方がご苦勞されているのがよくわかる。 学生には学生の正義や意見があるので、それを尊重しながら進んでいく必要がある。できるだけ対面に対応することは大事だと思う。文章だと伝わりにくかったり、勘違いや思い違いがあったりするため、
--	---

事項（２）説明 質疑	対面で話し合いを繰り返し確認しながら進んでいくことが大事である。 （事務局 松澤） <報告事項（２）について説明> （國澤委員） こちらの学校の魅力や特徴はどういうところだと思うか。 （玉野委員） 現在、魅力の発信のため、ホームページで学校の様子や学生様子を掲載しているが、他校と比べてPRが弱い。学生はネットからの情報収集が多いので力を入れていきたい。 （國澤委員） さいたま市内への病院への就職率が95%と非常に高いが、何かそのための方策があるのか。さいたま市に貢献する看護師と言わなくても、これだけの就職率を確保できているのであれば、強調すべきところはさいたま市に貢献ではなく、社会に貢献する看護師を育成することなのではないか。 （玉野委員） 実習病院の9割が市内である。学生は実習で知っている病院を選ぶことが多い。また、市立病院で働くこと、公務員に憧れて本校に入学してくる学生も多い。 1月には、実習病院とラダーがしっかりしている病院を中心に学校に呼び、就職説明会を実施している。今後は希望に添えない学生への対応も考えていく必要がある。 （國澤委員） 市立病院を希望しても就職できない人もいるということだが、学校の魅力は何だと思うか。 （玉野委員） さいたま市出身の学生が多く、自分が生まれ育った場所で地域に貢献したいと考える人が多い。地元で働けることが魅力だと思う。 （國澤委員） その他に、学校の魅力として、カリキュラムの特徴で何かあるか。 （玉野委員） さいたま市の災害訓練や、市立病院のトリアージ訓練や医療ボランティアがある。 （小櫃委員）
--------------------------	---

	教育理念や教育目的など、看護師としての必要なこれらのキーワードを表現していくことが非常に重要なことであると思う。 (小櫃委員) 在宅新聞が廊下に掲示してあるが、このように勉強した成果を出せるようになっているのはとてもよいことである。 若い世代の学生の方がSNSなど得意なので、学生主体で発揮してもらうことを検討したらどうか。先生の管理監督は必要であるが、高校生に響かせるにはSNSやホームページを付帯的に活用することは効果的なのではないか。 (早坂委員) 災害の講義をしているが、備蓄のことを伺いたい。教室にはヘルメットがあるが、食糧などどうなっているのか、さいたま市としての対応を伺いたい。 都内では3日間過ごせるだけのものが備蓄倉庫にあるが、ここはそうではないと聞き、さいたま市として検討した方がよいのではないかなと思う。 (玉野委員) 学校としての備蓄はない。学生には、災害時に備えて水や保存食を準備するように言っているが、個人で利用できるロッカーが小さく実際にはできていない。 (小島委員長) 市としては予算のこともあるが、検討しなければいけないことである。
事項(3)説明	(事務局 千野) 〈報告事項(3)について説明〉
質疑	(國澤委員) 学院の特徴を強調することが入学者の確保につながると思う。実習病院との連携を図っていると言っているが、実習病院がすぐ隣にあることは羨ましい限りである。いろいろなことで協力体制があるのだろうと思うが、それがこの学校の特徴と言えることもあると思うので、その具体を聞きたい。 (玉野委員) 市立病院から病院のアルバイトや医療ボランティアの募集がある。学生は実習だけではイメージがつかないことが多く、アルバイトやボランティアを通して、自分が役に立った実感や将来働きたいというこ

6. 閉会	とにつながる。病院が近いという点で、協力体制を取りながらやっている。 また、今年度から始めたいと思っていることであるが、病院の臨床指導者と勉強会をしたい。学校の授業に参加してリフレクションを行うなど計画している。 (國澤委員) ぜひそのようなこともホームページに載せていくといいのではないかな。 (小櫃委員) リカレント教育が非常に重視される時代である。病院と連携することや可視化することで、潜在看護師の再雇用や発掘につながり、人手不足の解消になる。高校生からしても、長く勤められる利点を可視化しやすくなるため、ぜひリカレント教育に力を入れてほしい。 (國澤委員) 期待される卒業生像（教育目標）とあるが、ディプロマポリシーと教育目標とは異なる。期待される卒業生を育てるために、どんなカリキュラムを展開しますというカリキュラムポリシーと区別して書いた方がいいと思う。 (玉野委員) ご指摘ありがとうございます。現在のカリキュラムを構築するときに、育てたい卒業生像があり、教育目標を掲げるところでイコールとなってしまった。もう一度見直していく必要がある。 (事務局 松澤) 以上
-------	---